



「ガラス亡霊婦人」(部分) 村山留里子 2006年 高橋コレクション蔵

Photo by HIROKAWA Tomoki Courtesy of the artist and YAMAMOTOGENDAI

【展覧会名】 特別展 「BODY / DRESS」

【会 期】 平成 29 年 7 月 15 日(土)～10 月 22 日(日)

*休館日 7 月 18 日(火)、9 月 19 日(火)、10 月 17 日(火)

開館時間 9:00～17:00(入館は閉館時間の 30 分前まで)

【会 場】 石川県能登島ガラス美術館 展示室A、D、通路

【出品作家】 イ・ブル、小田橋昌代、言上真舟、広垣彩子、松宮硝子、村山留里子

【作品点数】 43 点

【入 館 料】 高校生以上/個人 800 円(20 名以上の団体 700 円)、中学生以下 無料

【主 催】 石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

【後 援】 七尾市教育委員会、NHK 金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオななお

【助 成】 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

【協 力】 金沢 21 世紀美術館、高橋コレクション、富山ガラス造形研究所、富山市ガラス美術館

【お問合せ】 石川県能登島ガラス美術館

本展担当学芸員：米田晴子

〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 125-10

TEL:0767-84-1175 FAX:0767-84-1129

E-mail: yoneda@nanao-af.jp(米田)

※企画展会期中には、展示室 B・C にて当館のコレクション展も行います。

■ 展覧会について

多様な技法、色彩が存在するガラスは非常に多彩な表現が可能な素材です。近年はガラス素材の新たな可能性を感じさせる作家、作品が登場しており、時代を映す表現としてのガラス作品も現れてきている一方で、現代美術作家が表現素材としてガラスを用いることもあります。本展は、ガラスという工芸的な素材・手法を用いながらも、いわゆる「ガラス工芸」ではなく、現代を生きる人間の表現として、「身体」を強く意識させる作品制作を行っている女性作家によるグループ展です。女性の身体、そして女性にとってもうひとつの皮膚とも言えるドレスを通して見える多様な世界観を紹介します。

■ 展覧会の特徴

ドレスと身体感覚

荘厳な甲冑のような装飾、おびたしい数のガラス粒の集積、繋ぎ合わされたガラス片。本展で展示する煌めくガラスのドレスは、見る者を魅了するとともに、ひりひりするような皮膚感覚をも呼び起こします。ガラスのもつ透明性と輝きは古来より人々のあこがれでしたが、美しいだけではないガラスの魅力も紹介します。

ジャンルを超えたガラスによる造形表現

出品作家は、若手のガラス造形作家から現代美術の世界ですでに高い評価を得ているベテランまで、それぞれがガラス素材を幅広く解釈し、独自の造形言語で自身の世界を表現しています。「ガラス工芸」という規制の枠組みを外して、「身体」という普遍的なテーマを設定することで、現代を反映する表現としてのガラス造形の可能性を探ります。ガラス作家ではない作家によるガラスの作品、また異素材の作品も同時に展示することで、ガラスという素材に異なる角度から光を当てます。

作家の世界観を体感する展示空間

ドレスの作品展示場所となる展示室 D では、ケース内展示を極力少なくし、天井からの吊り展示や大型作品のインスタレーションをメインにしています。異才の建築家・毛綱毅曠(もづなきこう)の独創的な建築空間で、作家の表現する身体感覚を、文字通り体感してください。

■ 作家プロフィール



イ・ブル LEE Bul

1964年ヨンジュ(韓国)生まれ。1980年代から、身体的アイデンティティに関わるパフォーマンスに始まり、機械と人間が融合したようなサイボーグや、美術史や神話上のイメージを多様な素材や技法を駆使して表現した立体造形で知られる。ポリウレタン、ガラスビーズ、ステンレス、鏡などといった身近な工業製品や手工芸に用いられる素材を用いた人工的で装飾性の強い作品は、個人的な経験や自身が育った文化的背景を反映しつつ、文化や時代を超えた普遍的で壮大な世界を提示する。

1. 「出現」(部分)イ・ブル、2001年、クリスタル、ガラスビーズ、ポリウレタン/ポリ塩化ビニール、ステンレス・スチール、
H300 × W100 × D150cm、金沢 21 世紀美術館蔵 撮影:中道淳/ナカサンドパートナーズ 画像提供:金沢 21 世紀美術館



小田橋昌代 ODAHASHI Masayo

1975 年三重県生まれ。愛知教育大学で彫刻を学んだ後、ガラス造形の世界に進み、鑄造ガラスの人物像もしくは動物像を制作している。小田橋のつくる人物像は一貫して簡素なドレスを身にまとい、目をつむった女性の像である。目をつむることは自身の内側へと意識を向けることであり、その沈黙考する姿は見る者にも同様の行為を促し、それぞれの内側にある記憶と結びついて様々な物語を呼び起こす。

2. 「内なる世界へ VIII」小田橋昌代、2016 年、ガラス/キャスト、エナメル着彩、真 H52.0 x W22.0 x D23.0cm、石川県能登島ガラス美術館蔵



言上真舟 GONJO Mafune

1984 年福島県生まれ。2008 年に多摩美術大学工芸科ガラス専攻卒業後スウェーデンに渡り、Konstfack (College of Arts, crafts and Design)にて MFA 取得。その後 Royal University College of Fine Art での1年のプロジェクトを経て独立。現在はストックホルムに拠点を置き、パリ、ロンドン、プラハ、アメリカ各地などで精力的に展示活動をしている。割れたガラスを用いたハイヒールやドレスのシリーズを継続的に制作しており、その作品は儚げで痛々しくありながらも、現代を生き抜くタフさと勇敢さを併せ持った女性像を感じさせる。

3. 「Dance of a poetry.」言上真舟、2014 年、車の窓ガラス、作家の身体サイズ、作家蔵
撮影:Hironori Tsukue



広垣彩子 HIROGAKI Ayako

1984 年愛知県生まれ。2012 年に富山ガラス造形研究所卒業。ガラスと異素材を組み合わせたミクストメディアの作品を主に制作している。特に、建築資材であるスタイロフォームの土台に着色したワックスを塗り重ね、その上にケーンと呼ばれる無数の細いガラス棒を挿していく手法を多く用いる。目に見えないものを可視化し、目に見えるものの存在を疑うことを制作の核としており、作家独自の手法を用いて作り出された作品は、未知の生命体のような独特の存在感を放つ。

4. 「Katharsis」広垣彩子、2011 年、ガラス、ミクストメディア、H30 x W45 x D20cm、作家蔵



松宮硝子 MATSUMIYA Shoko

1981年東京都生まれ。ガラスを用い、想像上の生命体であるDuqueapuer(ドゥークーヒーパー)の生態を表現し続けている。死など負のエネルギーに反応して活動する存在であるというDuqueapuerの生態を、ジオラマや標本という形で展開するという独特の世界観を持つ。バーナーワークを駆使した造形は、触れると壊れそうな脆さを感じさせる一方で、人の生死の営みを淡々と見つめる未知の生命体が、縦横無尽にそのテリトリーを拡大しながら新しい何かを生み出していくかのような静かな力強さを持つ。

5. 「Duqueapuer-grow-springup」松宮硝子、2011年、パイレックス/バーナーワーク、H9 x W9.5 x D10cm、作家蔵



村山留里子 MURAYAMA Ruriko

1968年秋田県生まれ。10代後半から独学でろうけつ染めを学び、90年代後半より化学染料で鮮やかに染めた正絹裂布を縫い合わせる布作品を発表。並行してビーズ、パール、造花、レース、アクセサリー、ボタンなどの手芸用素材を即興的に組み合わせた立体作品「奇麗の塊」シリーズを制作。おびただしい量の素材を集積させ、それが増殖、変化し、それが濃厚な美の塊として見る者を圧倒する。平面的な作品から始まったこの綺麗なものの集積は、ドレス、腕、仮面といった形態へと展開している。

6. 「ガラス亡霊婦人」村山留里子、2006年、ガラス、鉄、針金、ビーズ、鏡、木、サイズ可変(インスタレーション)高橋コレクション蔵

Photo by HIROKAWA Tomoki Courtesy of the artist and YAMAMOTO GENDAI

■関連プログラム

スペシャルワークショップ「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界」

絵本の読みがたりの後、学芸員が展覧会をご案内します。

[日時] 2017年8月20日(日)、9月17日(日) 各日10:30～、14:00～

[場所] 多目的ラウンジ、展覧会場

[参加費] 無料(別途入館料が必要です)

[所要時間] 約40分

[対象] 子どもから大人までどなたでもご参加いただけます。

[申込] 不要。直接会場へお越しください

■ 広報用画像

画像 1～6 を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、美術館担当者までお申し込みください。

担当：米田 (Email: yoneda@nanao-af.jp)

< 使用条件 >

- ・ 広報用画像の掲載時には各画像のキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・ トリミング、画像への文字乗せはご遠慮ください。
- ・ 情報確認のため、校正紙を当館までお送りください。

以上、ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。